



マイエツト  
日本公債之辨

第五号

大藏省火  
災不險取  
調掛之印

4152





414  
A 2436



大正十一年四月  
張侯爵郵寄

全公債高ノ三割二分二厘ニ當ル紙幣ハ乃チ其一ヲ間接  
ニ利得アルモノトシ其二ヲ間接ニ費損アルモノトス  
其一 夫レ紙幣ハ之レヲ以テ農業工業或ハ鐵道構設ノ如キ利  
得アル生産資本ニ供充スルハ則チ之レヲ直接利得アルモノ  
ト云フヲ得ベシト虽氏其名既ニ紙幣ト謂フヲ以テ彼ノ起業公  
債鐵道公債ノ其名アルニ因テ必ス其如何ノ事業ニ供セシカラ  
知ルヲ得ルカ如クナラズ今姑ク吾人ノ觀ル所ニ田十年前  
間ノ施政上ニ於テ亦之レヲ以テ屢々不生産ナル非常費ニ充テ  
シカ如シ蓋シ日本國ノ紙幣タル他ノ諸外國ニ於ケルガ如ク國  
家財政上ノ窮乏ヲ填補スルカ為メ萬不得已ニテ之レヲ發行セ  
シニ非ス前ニ記スルカ如ク此ノ十年間ニ政府ハサタモ收納ノ  
支出ニ超過シタル高二千七百四十七万零三百八十四ヲ準備金

大正十一年四月



内ニ繰込ムヲ得タリシヲ以テ見ルベシ故ニ日本目今ノ紙幣ハ  
主トシテ左ノ三項ノ非常費ニ充テシモノト思考セザルヲ得ザ  
ルナリ

(一) 千八百六十八年發行旧諸大名紙幣ノ交換高  
四千九百万円

(二) 非常軍費五千三百三十八万零百二十一円ノ仕拂高(前記  
ノ差四条ヲ參着スベシ)但シ薩摩征討ニ就テノ五分利附  
公債千五百万円ヲ以テ仕拂ハザル分

三千八百三十八万零百二十一円

(三) 五千九百三十六万九千五百七十九円ノ準備金積立高(前  
記ノ第四條ヲ參着スベシ)但シ收納超過高二千七百四十  
七万零三百八十四円ヨリ成立セザル分  
三千百八十九万九千九百九十九円

此合計 壹億千九百二十八万零三百二十円

千八百七十八及七十九年度豫算表中ニ記載シタル國債高ニ據レ  
バ則チ政府發行ノ紙幣流通高ヲ壹億二千零九十二万七千二百  
零九円トス

然リ而シテ此ノ内唯々百七十四万六千八百八十九円丈ケハ之レ  
ヲ前十年間百般ノ諸非常費ニ充タシ更ニ平常費ニ充タサバリ  
コト虽氏其残餘ノ巨額ハ却テ之レヲ改畧上三箇ノ己ヲ得ザル  
不生産費ニ充タセリト云ハザルヲ得ス即チ其一ニ曰ク旧諸大  
名發行紙幣ノ交換及ヒ日本全國ヲ統治スルカ為メ旧諸大名負  
債ノ引受其二ニ曰ク全國ヲ維持スルカ為メノ非常軍費其三ニ曰  
ク國家後末ノ禍害ヲ防廢スルカ為メノ許多ノ準備金積立等是ナ  
リ而シテ若シ斯ノ如キ改畧上ノ費用ヲ支フルニ紙幣ヲ以テセ  
ザリセバ必ズヤ金貨ヲ以テフルカ或ハ公債ヲ募集セザルヲ得



ザリシナルベシ蓋シ此ノ二者ハ轉々其歸ヲ同フス何者金貨モ亦公債ヲ募集シテ以テ買入ザルヲ得サレバナリ今試ニ此ノ公債ヲ以テ五分利附且ツ本價平均百圓ヲ借ルヲ以テ借入ルモノトセン乎僕決シテ如斯クニテ借入ル、ヲ得ザリシヲ知ル亦試ニ日本ニ於テ此ノ紙幣壹億二千萬圓ノ代リニ五分利附公債壹億二千萬圓ヲ募リタリトセン乎其損失果シテ如何ソヤ則チ年々其利子トシテ六百萬圓ノ金貨ノ外出スレラ免レズ而シテ年々此ノ六百萬圓ヲ補フニ内國品輸出高ヲ以テスルヲ得スンバ必ス如斯キ場合アルベシ何者貿易損益比較上常ニ日本ニ損失多クレバナリ年々此利子六百萬圓ヲ拂フガ爲ノ亦公債ヲ募集セサルヲ得サルベク而シテ此ノ利子ノ利子ハ再公債ヲ募集シテ以テ仕拂ハザルヲ得サルベシ今姑ラ日本政府ハ此等ノ公債ヲ募ルニ始終五分利附且ツ本價平均ヲ以テ公債ヲ

募集スルヲ得ルモノト假定シ其國債ハ果シテ如何ノ額面ニ上ルベキヤヲ問ハシニ凡ソ二十八年半ニ於テ五分利附壹億二千萬圓ノ利子ニ五分利子ヲ加ヘ其金額五分利附四億八千萬圓ノ國債ト爲ルベシ故ニ仮令ニ低廢ノ利子即チ五分利附ノ公債ヲ以テ金貨ヲ買入レ得ルニモセヨ金貨ヲ以テ仕拂フヨリハ壹億二千萬圓ノ紙幣ヲ以テ仕拂フハ日本國ニ於テ二十八年半間ニ壹億二千萬圓ト四億八千萬圓トノ差額即チ三億六千萬圓ヲ節減シ得ベシ但シ此ノ紙幣ノ助ケヲ以テ節減シ得タル額面ハ殆ント紙幣發行高ヲ合算シタル全公債高ノ多キニ達セリ故ニ若シ此ノ全公債高ヲ必ス二十八年間ニ完償スベシト爲サバ則チ又紙幣ヲ使用スルガ爲メ五分ノ利ニ五分ノ利ヲ加ヘタルモノヲ以テ其公國債高丈々ノ金額ヲ二十八年半ニ節減シ得ベシ蓋シ紙幣ヲ以テセハ國家目今ノ國債ヲ二十八年間ニ完償スル



ヲ得ベシト虽氏紙幣ニ代ユレニ借入レ金貨ヲ以テシテ前ノ如ク二十八年間ニ完償セント欲セバ後來殆ント目前ノ如キ國債ヲ生スルニ至ルベシ又紙幣ニ代ユルニ金貨ヲ以テスルモ同期年内ニ完償スルニ至ラザレバ却テ其債額ハ少クモ七億三千五百方圓猶ホ其上ノ巨額ニモ達スベシ何者金貨ハ五分利子且ツ本價平均ヲ以テ容易ニ借入ル、ヲ得サレハナリ是ニ由テ之レヲ觀レバ不生産ナル然レ氏政畧上已ヲ得サル費用ニ充テシ紙幣ハ勿論直接ニ利得アルモノト云フベカラザレ氏亦間接ニ大ニ利得アルモノト云フベキナリ

其二 僕ハ紙幣ヲ以テ間接ニ費損アルモノトス則チ政府力或ハ人民力將テ國家ノ財政力或ハ人民ノ財産力其孰レニ費損アルヲ區分シ且ツ其他紙幣ノ内國通貨タルト或ハ外國貿易ノ媒介タルトノ西關係ニ就テ之レヲ考フル片ハ則チ左ノ四問題

ヲ得マシ

内國通貨トシテ使用スルガ為メ

(甲) 紙幣ハ間接ニ何程政府ノ費損トナルヤ

(乙) 紙幣ハ間接ニ何程人民ノ費損トナルヤ

外國貿易ノ媒介貨トシテ使用スルガ為メ

(丙) 紙幣ハ間接ニ何程政府ノ費損トナルヤ

(丁) 紙幣ハ間接ニ何程人民ノ費損トナルヤ

甲ノ答 紙幣ヲ使用シタルノ結果ニ由テ内國ノ物價ヲ騰貴セシメ且ツ隨テ債銀ヲ騰貴セシムルハ政府ハ之ガ

為メニ多クノ費損アルナリ

(一) 總テ政府ノ内國物品ヲ買入ル場合ニ於テ(例ハ建築

木材、軍隊需要品等)

(二) 總テ政府ノ電力者、高價ノ債銀ヲ拂フ場合ニ於テ(例



へバ道路堤防及て家屋建築

(三) 政府の総て物價騰貴、為ノ官吏ノ俸金ヲ増給セザル  
ベカラザル場合ニ於テ

蓋シ日本政府ハ今ニ至ルマデ未タ曾テ二及ヒ三ノ場合ニ陥ラ  
ザリシト虽一ノ場合即チ内國物價ノ騰貴セシトハ則チ低マ  
之レアリシナリ然リ而シテ仮令後未此ノ三箇ノ場合即チ物價  
ノ騰貴、貸銀ノ騰貴、俸金ノ増給等ノ場合ニ陥ルトアレニモセヨ  
更ニ國家理財上之レカ為ノニ損害ヲ蒙ムルトナカルベシ何者  
政府ハ諸税ヲ増課シテ(各民及ヒ全國人民ノ産業純益ニ課スル  
税價ハ敢テ是レ迄ヨリ其割合ヲ増サス)物價騰貴ニ由テ受クル  
貴損ヲ補填シ得ベケレバナリ請フ僕ガ意見ヲシテ詳明瞭然ト  
ラシムルガ為ノ暫ク左ノ証例ヲ設ケシメヨ今マ茲ニ酒造家ア  
ラン拾四ノ營業税ヲ納メ且ツ純酒壹石ニ付キ壹圓ノ酒<sup>酒</sup>ヲ納ム

ルトシ百石ノ酒ヲ釀造セバ百圓ト拾四トヲ合サタル高即チ百  
圓拾四ヲ納メザルベカラズ而シテ壹石十二圓十錢ニ鬻賣スル  
トハ即チ此内ヨリ壹圓十錢ノ税ヲ納ムル割合トナル然ルニ諸  
物價總テ一割騰貴スルトハ亦壹石ニ付キ壹圓二十一錢丈ケ高  
價ニ即チ十三圓三十錢ニ鬻賣スベシ且ツ政府モ亦凡百ノ需  
要品ニ就テ其價一割ヲ増拂ヲ以テ其過分ノ失費ヲ補填スルガ  
為ノ收納ヲ増サシムルベカラズ乃チ之レヲ詳言スレバ諸税トモ  
一割ヲ増課セザルベカラズ由テ該酒造家ニ十壹圓ノ營業税及  
ヒ百十圓ノ酒税合セテ百二十壹圓ヲ課スベシ然ルトハ壹石ニ  
付キ今マ壹圓十錢ノ税ナルモ壹圓二十一錢トナルベシ而シテ  
酒造家ハ此ノ壹圓二十一錢ヲ壹石ノ市價十三圓三十錢ヨリ  
納ムルヲ以テ其手元ニ残ル所ハ前ニ唯十一圓ナリシモ今マ  
十二圓十錢トナリ亦釀造諸費ハ前ニ八圓ナリシト仮算スレバ



今マ八四八十錢トナル故ニ前ニ三四ノ純益ナリシモ今マ一割増シテ三四三十錢トナル然ラバ酒造家ニ於テハ前ニ比シテ更ニ尅文ノ損スル所ナカルベシ然リ而シテ紙幣ヲ内國通貨トシタルガ為メ物價及ヒ債銀ヲ騰貴セシメ差ニ俸金ヲ増給スル場合ニ際シ收稅權ヲ有スル政府ハ其騰貴ノ割合ニ從ヒ諸稅ヲ増課スルヲ以テ財政上紙幣ヲ使用シタルガ為メ受クル間接ノ超過失費ヲ充ル補フニ足ルベシ且ツ又國家ノ物價騰貴ノ割合ニ從ヒ諸稅ヲ増課スルニ方リ毎箇ノ稅額ヲ一々増課セズンテ今ニ至ルマデ直接ニハ納稅セズ唯々他ノ生産者ノ納附シタル稅額ヲ間接ニ分納シ来リタル消費者或ハ物品ニ直接ニ新稅ヲ賦課セルハ歴史上屢々散見スル所ナリ蓋シ如斯キ新稅ヲ賦課スルトモ敢テ是レカ為メ人民一般ノ財産ニ已前ヨリ過分ノ稅ヲ課シタリト云フベカラズ故ニ甲ノ場合ニ於テ國家ハ毎時

其超過失費高ヲ補填スルヲ得ベシトス是ニ由テ之レヲ觀レバ紙幣ヲ内國通貨トシテ使用スルカ為メ敢テ間接ニ政府ノ失費ヲラザルナリ

乙ノ答 紙幣ヲ使用スルガ為メ内國ノ物價ヲ騰貴セシメ且ツ隨テ債銀ヲ騰貴セシムル所ハ之レカ為メ經濟上重モニ大ニ變更ヲ生スベシ

一 總テ債主ハ利子ノ受領及ヒ貸金ノ取立等ニ付キ損失アルベシ何者該金負ハ最初貸付タル所ニ比スレバ其購買力ノ減少スレバナリ

二 價額ノ騰貴シタル物品ハ競争ノ能力試ニ減少スルガ故ニ仮令之ヲ輸出スルモ却テ損失アルベシ

第一ノ說明 紙幣ノ購買力ヲ減少シタルカ為メ債主ノ受クル損害及ヒ之レニ由ツテ起ル經濟上財産分有ノ失當等ハ最



モ弊害ノ甚クモト云々氏姑ラテ吾人ノ考フル所ニ依レ  
バ如斯キ弊害ハ仮令ヒ金貨ヲ以テ通貨トシ或ハ金貨ヲ以テ  
紙幣ニ交換スルモ到底除去スベカラサルモノ、如シ何者如  
斯キ弊害ハ獨リ紙幣ニ固着スルニ非ス然レテ貨幣ニ固着スレ  
ハナリ

「ゴシチエストール」ノ「ラーウエン」中學校理學、經濟學大博士「ウエ  
ステンレー」ヲ「エフオンス」氏ハ其著書「貨幣及ヒ其價格ノ變更」  
第三百二十五葉、千八百七十五年龍動出版ニ於テ左ノ如ク論  
ゼリ

抑モ金貨ノ著ルニキ昂低ヲ經歷シタルヲ証明スルハ誠ニ易々  
ナリトス蓋シ僕カ千八百六十五年六月龍動統計學會ニ於テ演  
説シタル千八百七十二年以來ノ金價昂低論ニ云フガ如ク千七  
百八十九年ト千八百九十年間ニ金價ハ百ヨリ五十四分或ハ四十

六分マデニ下落セシガ千八百九十年ヨリ千八百四十九年ニ至リ  
再ヒ百ヨリ二百四十五分或ハ百四十五分迄ノ非常ナル割合ニ  
騰貴セリ故ニ此ノ騰貴ニ由テ政府ノ下賜スベキ金祿及ヒ當年  
ニ拂渡スベキ額面ノ定リタル諸拂高ハ千八百九十年ニ比スレバ  
凡ソ二倍或ハ一倍半ノ増額ニ至レリ而シテ千八百四十九年已  
來金價ハ亦々少クモ百ヨリ二十分程迄ニ下落セリ猶ホ夫レ經  
濟家ノ貿易年報或ハ僕ガ前論ノ詳説ニ據レバ信憑期限中百ヨ  
リ十分乃至二十五分迄ノ昂低アリシヲ証スベキナリ

又之レニ反スル金ト銀トノ價格昂低ノ關係ヲ示スカ為メ僕今  
マ「アロベツソール」ト「トル」ト「イソキス」ト「オンス」ト「イマン」ト「バル」ト  
ルツ氏ノ著述ナル千八百七十八年發兌「宇宙經濟上ノ產物、交際  
及ヒ貿易」ノ概論第百六十九葉ヨリ其大要ヲ引用スル「左ノ如  
シ



年号	銀塊一「 <small>ツ</small> ンス九分ノ價	價格割合
千八百六十三年	六十一ト八分ノ三「 <small>ツ</small> ンス	一割五分三厘八毛
千八百六十四年	六十一ト八分ノ三「 <small>ツ</small> ンス	一割五分三厘八毛
千八百六十五年	六十一ト十六分ノ一「 <small>ツ</small> ンス	一割五分四厘
千八百六十六年	六十一ト八分ノ一「 <small>ツ</small> ンス	一割五分四厘
千八百六十七年	六十ト十六分ノ九「 <small>ツ</small> ンス	一割五分五厘五毛
千八百六十八年	六十「 <small>ツ</small> ンス	一割五分七厘二毛
千八百六十九年	六十ト十六分ノ七「 <small>ツ</small> ンス	一割五分六厘三毛
千八百七十年	六十ト十六分ノ七「 <small>ツ</small> ンス	一割五分六厘三毛
千八百七十一年	六十ト二分ノ一「 <small>ツ</small> ンス	一割五分五厘三毛
千八百七十二年	六十ト十六分ノ五「 <small>ツ</small> ンス	一割五分六厘七毛
千八百七十三年	五十九ト四分ノ一「 <small>ツ</small> ンス	一割五分九厘一毛
千八百七十四年	五十八ト十六分ノ五「 <small>ツ</small> ンス	一割六分一厘六毛

千八百七十五年	五十六ト八分ノ七「 <small>ツ</small> ンス	一割六分六厘九毛
千八百七十六年	五十三「 <small>ツ</small> ンス	一割七分七厘九毛
千八百七十七年	五十四ト十六分ノ十三「 <small>ツ</small> ンス	一割七分零二毛

故ニ金銀間價格ノ差違ハ已前ヨリ平均一割五分五厘九毛ヨリ一割七分七厘九毛迄ニ至レリ又千八百七十六年七月中ニ四割六分ト四分ノ三「ツンスニ至リタル日モアレリ是ヲ以テ價格ノ割合ハ二割零二厘即チ銀價ノ下減セルトニ割六分ナリ

蓋シ之ヲ以テ横濱市場ノ紙幣(金札)價格ノ昂低ニ比較セバ紙幣ノ輸入品ニ對スル購買力ノ昂低ハ違カニ上ニ記スル時期ノ金ノ昂低ノ甚タシキニ至ラザリシヲ知ルベシ且ツ金札ハ一般ノ内國品ニ對シテ彼ノ洋銀ノ輸入品ニ對スルカ如キ價格ノ甚タシキ昂低アリシヲ視ス故ニ日本品價格騰貴ノ確報ヲ為スハ今ニ至ルマデ僕ノ未タ嘗テ能ハザル所ナリ



已往六年間ニ横濱貨幣相庭ニ於テ金札ト金貨及ヒ洋銀トノ関  
係間ニ生スル変更ハ龍動銀行引替拂渡ノ為替手形報告ヲ視レ  
バ則チ了解スルニ足ルベシ蓋シ僕ハ「シヤパン、ウヰキ、ク、リ、ノ、メ  
」ル新聞ヨリ之レヲ拔萃ス但シ此ノ報告ハ該新聞ニ於テ毎土  
曜物價表ヲ掲出スルニ初マリ該新聞ノ高況報告ヲ掲出スルヲ  
止メシ十月十二日ニ終ル其後ハ僕則チ之レヲ「シヤパン、デーリ  
」、アドウ、エ、レ、ケ、ー、セ、ル新聞ヨリ補出セリ故ニ僕ノ参考ニ供セ  
レ古已往六年間ノ物價表ハ毎週平均表ニ非スシテ毎週定日ノ  
物價表ナリ然リト岳氏價格昂低ノ経過ヲ知ルニ充分ナルモノ  
ト云フベキナリ

千八百七十三年 金貨及金札ハ銀貨ニ對シテ減價シ而シテ金  
札ハ金貨ニ比シテ四百分ノ一丈ヶ高價ニ居レリ但シ金札、金貨  
トモ龍動ノ為替相庭ニ隨テ相庭ヲ立テタルモノナリ

千八百七十四年 四月初ノマデ紙幣ハ金貨ニ比スレバ是レマ  
デノ如ク四百分ノ一丈ヶヲ増加シタルトナレ氏其比ヨリ漸々  
減價シ当年ノ金貨ニ對スル減價ノ最高度ハ却テ一分四分ノ三  
ニ至リタリキ

千八百七十五年 銀ハ漸次下落シテ金貨先ニ紙幣ハ騰貴セリ  
而シテ金貨ノ洋銀ニ對スル増價ハ初メテ四百分ノ一ノ割合ニ  
達シ又紙幣ハ洋銀ハ同價ナリキ蓋シ当年紙幣ノ金貨ニ對スル  
減價ノ最高度ハ一分四分ノ三ノ割合ナリシナリ

千八百七十六年 銀價ノ劇シキ昂低及ヒ非常ナル生糸輸出ハ  
大ニ相庭上ニ影響ヲ与ヘリ乃チ金ハ始終亦紙幣モ当年中大概  
銀ニ對シテ増價シタリ而シテ紙幣ノ金貨ニ對スル減價ハ最高  
度ニ於テ五分ト八分ノ七ノ割合ニマデ達シ或ハ又双方同價ナ  
ル好場合モアリシナリ



千八百七十七年 洋銀價格 昂低ハ大ニ著ルシク金貨ハ洋銀ニ比シテ八月マデハ減價シタリシモ八月ヨリハ増價ニ至リ又紙幣ハ銀貨ニ對シテ始終減價シ即チ其最高度ハ六分ト八分ノ一ニ達セリ且ツ紙幣ハ最初金貨ト同價ナリシモ三月中旬ヨリ其價格間ニ差ヲ生シ復タ五月末ニ両方トモ四百零三ノ同價ニ至リ其後ハ今日ニ至ルマデ價格大ニ差ヲ生セリ然レモ千八百七十七年ニ於テ金札ノ金貨ニ對スル減價ノ最高度ハ初メテ八分ト八分ノ三迄ニ至リシナリ

千八百七十八年十月十二日ニ至ル 金貨ノ銀貨ニ對スル増價ハ此時ヨリ始終前年八月已來ノ地位ヲ占メリ而シテ紙幣ハ金貨ニ對シテ其最下度ハ六分其最上度ハ二割ト四分ノ三ノ減價ニ至リ又銀貨ニ對シテ(金銀中銀貨ハ低價ナルヲ以テ之レト紙幣ヲ比較スルハ寧ロ至當ナリトス)最下度ハ三分二分ノ一最上

度ハ即チ今日ニ於テルガ如ク一割三分ノ減價ナリ

次表ニ於テ最上度ト最下度トヲ示ス

年号	ステルリング	金貨	金貨	金札	金札
千八百七十三年	四	最上度 最下度	最上度 最下度	最上度 最下度	最上度 最下度
千八百七十四年	四	最上度 最下度	最上度 最下度	最上度 最下度	最上度 最下度
千八百七十五年	四	最上度 最下度	最上度 最下度	最上度 最下度	最上度 最下度
千八百七十六年	四	最上度 最下度	最上度 最下度	最上度 最下度	最上度 最下度
千八百七十七年	四	最上度 最下度	最上度 最下度	最上度 最下度	最上度 最下度
至千八百七十八年十月十二日	三	最上度 最下度	最上度 最下度	最上度 最下度	最上度 最下度



自千八百七十三年 至千八百七十八年	平均	四	五十八	三	八十八
			八十三		八十八
最上度最下度	平均	四百二十六	三百六十九		
			四百五十二	三百七十五	
其差百三付八十二	平均	四百五十二	三百七十五		
			四百五十二	三百七十五	
其差百三付八十三	平均	四百五十二	三百七十五		
			四百五十二	三百七十五	
其差百三付八十二	平均	四百五十二	三百七十五		
			四百五十二	三百七十五	

大藏



